



みねかえで しるし あお
峰楓 徽章と仰ぎ

第4号

【発行人 教頭(中原)】

「学習を設計する」 ～2学期終業式～

コロナ禍で迎えた3年目の2学期。様々な制約の中、生徒にとって2度と来ない中学校生活。地域の皆様・保護者の皆様をはじめ、多くの方々のお支えにより、生徒と共に工夫を重ね、知恵を出し合い、本日、伊那中学校は終業式を迎えました。

学校長 挨拶

ここ伊那谷も先週ぐらいから大変寒い日が続き、22日からは雪。冬を実感する毎日です。夏の暑い時期からスタートした2学期も本日で終了です。

この2学期、コロナ禍ではありましたが、学校では、様々な活動が実施されました。その中で、私は生徒の皆さんの輝く印象的な姿にたくさん出会いました。ここでは、3年生修学旅行の一コマを紹介します。3年前コロナという事態が起き、昨年、一昨年は当初4月に予定した京都・奈良への修学旅行を変更し、長野県内1泊旅行を秋に実施しました。コロナに対する対応も変化中、今年こそは当初計画されたプランを実施したいという想いで準備してきましたが、4月実施は難しく9月に延期。しかし、9月最初の本校のコロナの状況は厳しいものがあり、もう断念するしかないかなという状況でした。ところが、いろいろな関係調整ができ、11月に再延期。個人の旅行と違い、100人以上の旅行は簡単に延期ができる訳ではありませんが、今回は様々な幸運に恵まれ延期ができました。そして11月、当日はコロナの影響で欠席する生徒もなく3日間の旅行が実施できました。

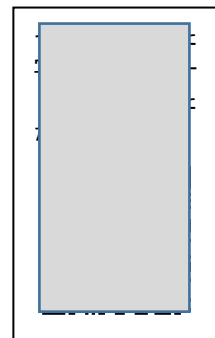
ここで3枚の写真を紹介します。1日目の昼食の様子、食事はみんなでワイワイというのが楽しみのひとつですが、感染予防をする、食事会場に迷惑をかけない等の観点からこんな様子で昼食をいただきました。印象的な姿でした。この2枚はさわやかな秋晴れの中、見学した金閣寺と2組の皆さんの様子です。3日間の修学旅行、本当に多くの笑顔が見られました。そんな姿を見て、私もとてもうれしい気持ちにさせていただきました。

今、行事の話をしていただきましたが、学校生活の中で皆さんが一番時間を割いているのが「授業」です。今日は、日常の授業における「学びを設計する」という話をします。「設計」という言葉から、テスト勉強計画とか長期休業計画とかを想像する人がいるかもしれませんが、そういう話ではありません。

今日の話は、日常の授業の中で、自分自身の学習に対する学び方や学びに向かう姿勢を自分で計画していく力をつけたいという話です。

これは数学の教科書です。日常の授業では、教科書を中心に活用して勉強を進めていると思います。また学びの確認として、数学科では単元テストを実施していると聞いていますので、どの教科でも単元テストや定期テストで自分自身の理解度を試していると思います。ところで「学び」というのは、自分自身の理解度が一旦わかった後が実は大事です。そんな視点について、今日は教科書を題材にして考えてみます。

まずは単元テストを実施する前です。教科書にはこんなページがあります。「学びをたしかめよう」「学びを身につけよう」というページです。ここを活用して自分の理解度を自分自身で再認識してみることができると思います。また教科書の裏側には、「自分から学ぼう編」が構成され、3つの分野が掲載されています。その中に「力をつけよう」というページがあります。これらのページにはQRコードがついていて、中にはヒントと解答が載っています。単元テストや定期テストに向けての勉強や単元テスト後にもう一度確認することに使えるページです。大事なことは、自分自身でこういったページをどう活用することが自分にあるか考えることが「学びを設計する」ということなんです。単元テストの後に、テストでの間違った部分と似たようなところだけ復習する方が自分にはあると考える人もいるでしょう。数学は苦手だから簡単な部分だけ確実に復習するでもよい



と思います。ここで大事なことは、一人一人が自分に合った方法を自分の力で考えてほしいということです。数学の苦手な人は、教科書や問題集の中の似たような問題を何回もやってみることも有効ですね。タブレットによるAIドリルも活用できますね。逆に、おおむね理解できていると認識した人は、さらにいろいろにチャレンジしてほしい。そのために用意されているページが、「〇〇の利用」という章です。例えば「説明してみよう」という問いかけがあります。自分なりに説明文章を作ってみる。こういう活動は自分の力を大きく伸ばします。

また先ほど紹介した教科書の後ろから構成される中に「学びをいかそう」という部分があります。単元末の「利用」の章をもとに、「より学びを深める」ために構成されています。学びの力をより高めたい人にお勧めです。さらに教科書には「数学ライブラリー」というページがたくさん用意されています。今学んでいる内容の関連事項のトピックが提示されています。こんなページに興味を持った人は、「Inachu My Challenge」で自ら「探究」してみるなんていう方法もあります。「Inachu My Challenge」は皆さんの疑問や興味を基にした学習です。気づいた人もいると思いますが、ここにもQRコードが。中には、問題だけでなく、学びのきっかけをつくる動画も用意されています。興味深いものもありますよ。

実は教科書というものは、すべての生徒が記載内容全部を勉強しようというコンセプトで作られている訳ではないのです。いろいろな情報を盛り込んで、先生たちだけでなく、自分に必要なところを生徒の皆さんが自分で考えて使ってほしいと願って作られています。教科書は、「自分の学習を見直し、自分自身の学びを作り出してください」こんなメッセージも込められているのです。でも、「自分の学びを設計する」ことは決して簡単なことではないと思います。どうしていいかわからなかった時はぜひ先生に相談してみてください。時には先生たちから、「こうした方がいいよ」とか「これが有効かも」というアドバイスをします。耳を傾け、自分の「学びの設計」に役立ててください。日々の勉強は「自分の学びを設計する」そんな力を養うためにも行われているのです。授業時間以外の時間、たとえば毎日の家庭での時間、長期休業の時間、そんな時間でぜひ「自分の学びの設計」をしてみてください。

これからの時代は、「自分で学びだけでなく楽しみや進路、職業そして生き方を設計する力」が求められてきます。以前もお話しましたが、そこでは「メタ認知する力」も必要になります。「Inachu My Challenge」もそんな意味も込めてやっています。

今日は2学期の締めくくり、新しい年を迎える前に、「学び」についてお話させていただきました。

有 賀 稔

BACK to 2nd Semester ～2学期を振り返って～

変化を楽しむ・変化を恐れない ～文化祭が生み出したもの～



【ステージバック スローガンは「化学変化」】

9月30日(金)・10月1日(土)に本校の文化祭「第75回泉が丘祭」を行いました。生徒会が中心となって準備を進めてきました。生徒たちが考えたスローガンは「化学変化」。常に、変化を求める子どもならではの柔軟な発想を象徴した言葉に感じます。若さ溢れる生徒たちの躍動する姿を目の当たりにし、大人の想定した姿を生徒に追い込むのではなく、「子どもなりに考え、悩み、表現している姿を丸ごと受け止め、伸ばす。」そんな温かな大人の姿こそが今、必要とされていると強く感じました。

生徒たちが創造的に創り出した場面の数々

の中から、閉祭式での生徒たちの言葉をご紹介します。

ナレーション

世界を変える実験それは、泉が丘祭の中で行う様々な実験を通して、それぞれの個性が混ざり合い化学変化を起こし、一人ひとりの見たり感じたりしている世界が変化する。そんな希望に満ちた実験であったと。



閉祭宣言・生徒会長

この2日間で皆さんの世界はどんな風になりましたか？一人ひとりが感じた世界の変化の輪がもっともっと広がってほしいと思います。そして、今度は皆さん一人ひとりが周りの人の世界を変えられるような化学変化をどんどん起こしていったら、この後の学校生活も楽しみなものになっていくのではないのでしょうか。これからも、そんな学校にさらに新加（しんか・生徒会スローガン）させていきましょう。以上で第75回泉が丘祭の閉祭を宣言します。



「学び」の基本は、好奇心や探究心 ～探究の時間(マインクエスト)

「学習は与えられるものではなく、自ら求めるもの」。ただ待っていても、子どもの「求める力」は湧き上がってこない。子どもの自ら求める力を、教師はいかに引き出すか。そのような課題意識に立ち、今、伊那中では教科指導やマイチャレンジを通して、「探究学習」に力を入れています。



【「好き」を学びに】

そのような中、生徒たちの探究心(子どもが本来持っている「やってみよう」とする力)を中学校の学びに位置付け、自身の「やりたいという気持ち」が学びの原動力になる体験を得るため、文化祭において「探究の時間(マインクエスト)」を創設しました。

地域や保護者・高校生など、趣旨に賛同いただき、「探究」について現在進行形の皆さんを講師に迎え、計35もの講座を開催することができました。

探究講座の紹介

- ①よく飛ぶ飛行機を製作しよう
- ②デザイン思考を体験しよう
- ③言葉で伝えられない思いをLINEスタンプで表現してみよう
- ④イラストレーターを体験しよう
- ⑤謎解き人生バラエティコドナートーク〜ヒトに向き合う、俺達・私達のリアルとは〜
- ⑥持続可能で魅力的な市民農園をデザインしよう
- ⑦人生をマインクエスト
- ⑧<好き>を形にしてみよう
- ⑨楽しい刺しゅうを作りましょう
- ⑩着物が好き!を仕事にする
- ⑪経木でオーナメントを作ろう
- ⑫アロマを通して、人を癒す仕事に触れる!時間
- ⑬カードゲームで楽しく介護を学ぼう!!
- ⑭漫画家と一緒に「冒険ストーリー」を創ろう
- ⑮つぶやき場
- ⑯色を使った心理テストで自分を分析してみよう
- ⑰樹木医の仕事、Arboristの仕事
- ⑱セネガル生地でSDGs〜タンブラー制作
- ⑲スマート農業とSDGs
- ⑳今日からできるSDGs
- ㉑伊那北高理数科生徒による探究講座 紙飛行機
- ㉒伊那北高普通科生徒による探究講座 SDGs
- ㉓意外と知らないゼロカーボン!
- ㉔!OODA-OODA!弥生高の探究をひとかじり
- ㉕自分で磨いて作る!上伊那産材の木製マグネット
- ㉖伊那のインディージョーンズ(考古学者)のお仕事
- ㉗おもしろかつば館でふるさと創り〜夢の実現に向けた3つのヒント〜
- ㉘異文化を体験してみよう
- ㉙旅する蝶アサギマダラについて
- ㉚「宮田村アサギマダラの里」産、藤袴手作り石鹸ワークショップ
- ㉛未来のまちはすぐそこに!ITのお仕事のはなし
- ㉜みんな違ってみんないい。アーユルヴェーダで私のいいとこ探し
- ㉝呼吸だけで変わる!!かもしれない・・・
- ㉞科学の不思議を体験しよう!(伊那中科学部)
- ㉟3Dデータを使ってみよう!

先輩たちの姿 ～生徒総会～

12月16日(金)には、第2回生徒総会が行われました。今年度生徒会活動の報告と承認が行われました。今年度も生徒会役員を中心に、生徒が主体的に学校づくりに参画してきました。学校を引っ張ってくれた生徒の皆さん、お疲れ様でした。生徒会スローガン「新加(しんか)」を合言葉に自分たちで考え取り組んだ活動が全て承認されました。



また、承認後には、役員から、「自分たちで考え、行動するのが伊那中です」という力強い言葉があり、その後、令和5年度生徒会の執行部が紹介されました。この中で、新生徒会長が「私たちのために取り組む3年生の姿は、とても格好よかったです。先輩たちのように、新しい伊那中を私たちが創っていきます」と、これまでの先輩たちの創り出してきた生徒会をもとに、さらにみんなで前へ進むという決意表明がありました。最後に、校長より、ねぎらいの言葉と共に「伊那中は皆さんが創る学校だと思っています」と、生徒会活動への支えの言葉がありました。今後も教職員全員で生徒会を支えていきたいと思えます。

校長の話

本日、前に並ぶ皆さんは、1年間、生徒会活動を頑張ってくれました。まずは、全員で、その取組や努力に感謝したいと思います。ありがとうございました。

さて、今年もコロナ対応に追われた1年間でした。コロナ禍になって3年が過ぎようとしていて、もう生徒の皆さんは誰もコロナ前を知らなくなりました。だからこそ、これからどうやっていくか創造性を発揮していくことになります。印象的だったのは、文化祭で、密を避けながらも工夫して楽しむため、今年はペンライトを一人一本ずつ用意して、今までにない演出を全校で創り出しました。また、自分たちでカラー版のパンフレット代を稼ごうと、アルミ缶集めにも取り組みましたね。

生徒会員一人ひとりから寄せられた質問・意見一覧を見させてもらいました。役員の皆さんが一年間やってきて励みになるような一言が多くて感心しました。生徒会活動は、ややもするとクラス対抗のランキング競争になってしまいがちです。しかし、例えば、生活を豊かにしようとして環境委員が目立たないけれど、マリーゴールドを育て、水やりをしてくれました。こういった些細な活動が、実は皆さんの学校を創っているということを私は教えてもらいました。

新しい役員の皆さん、コロナの中だからこそ、目的を明確にして活動に取り組むとよいですね。伊那中は皆さんが創る学校だと思っています。タイムリーな時にタイムリーな活動を期待しています。先生たちも全力で応援しています。

お知らせ

コロナウイルス感染の拡大防止へのご協力について

保護者の皆様には、コロナウイルス感染の拡大防止にご協力いただいておりますことに深く感謝申し上げます。年末年始休業中も、引き続き、心配事が生じたり、本人やご家族が感染者あるいは濃厚接触者となったりした時には、下記の通り対応しておりますので、学校へ速やかにご連絡をお願いいたします。

- (1)学校電話対応 平日7:50～19:00 72-6168
- (2)夜間および休日、学校閉庁日(12月28日～1月4日)連絡先 070-4127-6087(学校携帯)

地域の皆様、保護者の皆様、今年も大変お世話になりました。子どもが主体的に学び、力をつけていくためには、今後とも地域とのつながりが不可欠であり、教師も地域の中で子どもと共に学び、子どもの可能性を伸ばせる学校づくりに努めてまいりますので、引き続きお力添えをよろしく願いいたします。良いお年をお迎えください。